

専門分野

精神看護学（講義5単位・実習3単位）

1. 精神看護学の考え方

精神看護とは心の健康問題を持つ人に対し、個人の尊厳と権利を擁護し、自律性の回復やその人らしい生活を送れるよう支援することを基本としている。現代は様々なストレスが存在し、「こころの時代」「不安の時代」ともよばれている。このような社会の中で不安や自己の欲求との葛藤を体験しながら、心の健康を維持していくのは容易ではない。心の健康問題は社会の変化と切り離して考えられず、自殺や精神疾患が課題となっている。

心と身体は常に相互に作用しており、身体疾患に伴って心のバランスを崩す人も多い。また、人は発達上で様々なライフイベントや発達課題の獲得などの阻害により、常に危機的状況になる可能性をもっている。そのような状況を考え、心の健康問題は誰にでもおきると理解し、精神看護学の対象が自分を含めた全ての人に及んでいると理解する。また、心の健康問題を持つ人やそのケアをする人に対してのリエゾン看護チームの活動を理解したい。心の健康問題を抱えている人への援助方法を学ぶことは、全ての看護の基本である。

厚生労働省は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を政策理念とし様々な施策を行っている。近年は心の健康問題をもつ人は増加傾向にあり身近な疾患になっている。精神障害の有無や程度に関わらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしができるよう社会復帰、及びその自立と社会経済活動への参加の促進が求められる。

精神看護学では、人が人に働きかけ、そこに関わる看護師が自分自身の感情・思考を知り、そのうえで有意義な患者-看護師関係を築くコミュニケーションの方法や心の健康問題を持つ人がその人らしく生活できるような支援を学ぶ。また、日本の精神医療体制の現状を知り、各個人の精神障害に関する認識を見つめ、そこに潜む強い偏見があることを理解する。その上で心に健康問題のある人や病を持った人を一人の人として、治療や看護の介入が必要な状態として理解し、援助方法を学ぶ。

2. 目的

精神看護の基盤となる理論や知識を学習することにより、精神看護の対象を理解する。

心の健康を維持するための援助及び、心の健康問題を持つ人や家族に対する援助について学ぶ。

3. 目標

- 1) 人間の心の発達や、心の働きを理解する。
- 2) 個人と環境とのダイナミックな相互作用と、そこに生ずる健康問題がわかる。
- 3) 心の健康問題をもつ人がわかる。
- 4) 心の健康問題をもつ人の特徴を学び、必要な援助方法がわかる。
- 5) 精神看護における専門的アプローチの方法を理解する。
- 6) 地域社会における精神保健医療福祉の必要性と政策・施策を学び、心の健康問題を持つ人の社会復帰に関わる活動がわかる。